

京丹後市教育大綱の策定に当たっての考え方（案）

1. 教育大綱の性質及び教育振興基本計画等との関係性

【内容面の観点】

- ✓ 大綱は、教育振興基本計画と異なり、教育、学術及び文化の振興に関する目標や施策の根本となる方針を定めるものであり、詳細な施策について定めるものではない。
- ✓ 国の教育振興基本計画における基本的な方針を参酌しつつ、地域の実情に応じて定めるものである。

【時系列的観点】

- ✓ 令和元年 11 月に改定した京丹後市教育振興計画は、平成 27 年 3 月に策定した京丹後市総合計画との整合性が図られている。
- ✓ このため、令和 3 年 2 月に策定した京丹後市総合計画基本計画については、完全に整合性が図られているわけではない（参考資料 2 参照）。

2. 考慮すべき論点等

- ✓ 京丹後市総合計画基本計画の内容を踏まえ、後期中等教育や高等教育等も含めた大綱とするべきではないか。
- ✓ 京丹後市総合計画基本計画策定後に生じてきた論点等も踏まえた大綱とするべきではないか。

（論点例）

- 新型コロナウイルス感染症により顕在化した学校、ひいては教育の在り様の変化や、文化・芸術の重要性の再認識等についてどのように考えるか。
 - SDGs 未来都市として、次世代との対話である「教育」をどのように位置づけていくか。
 - GIGA スクール構想を踏まえつつ、令和の時代における新たな教育をどのように考えるか。
 - 地域の特性等も踏まえつつ、グローバル人材の育成をどのように図っていくか。
- ✓ 京丹後市教育振興計画は 7 つの重点目標（参考資料 2、参考資料 3 参照）を定めているが、それらの根本となる大綱は、上記の論点例も踏まえつつ、より大きな方針を打ち出すべきではないか。

3. 策定の方針（案）

- ✓ 1. 及び 2. も踏まえつつ、京丹後市が目指す教育、学術及び文化の振興に係る理念、そして理念に基づく柱を定める。
- ✓ 理念及び柱の下に京丹後市教育振興計画（重点目標、施策の方向性等の詳細）が位置づけられるものとする。

京丹後市教育大綱（イメージ）

＜考え方＞

「市民総幸福の最大化」に向けて、京丹後市教育大綱は、「子育て環境日本一」を目指す京丹後市の考えを教育委員会と共有しつつ、第2次京丹後市総合計画基本計画や京丹後市教育振興計画との整合性及び連動性を踏まえて策定する。

＜理念＞

京丹後市の子どもたちは、これからの京丹後市、ひいては日本、そして世界を担っていくこととなる宝であり、一人ひとりの可能性を引き出すためには子どもたちの夢と向上心を支えることが重要である。

宝である子どもたちをまちづくりの中心に置き、誰一人置き去りにされない教育を実現するとともに、教育や文化等を通じて、すべての子どもたちの無限の可能性を引き出し、より良い成長や変化を促すことにより、個々人の幸福な人生や持続可能な京丹後市の実現を図る。

＜理念に基づく柱＞

※ 資料1「3. 策定の方針（案）」を踏まえ、理念に基づく柱を設定する（3～4つ程度）。下記は現時点でのイメージである。

※ あわせて、下記の主な視点の例も参考にしつつ、柱の考え方の具体化を図る。

① 自ら未来を切り拓く令和の時代の教育の構築

（主な視点の例）

- ・ 認知能力・非認知能力の育成
- ・ 個別最適な学びと協働的な学びの実現
- ・ STEAM教育の実践やグローバル・グローバルな視点の涵養
- ・ 障害の特性や特異な才能に応じた教育の実践

② 誰一人置き去りにされない教育の実現

（主な視点の例）

- ・ SDGsの理念（人々の絆や多様な価値観の尊重を含めた包摂性や普遍性等）
- ・ 新型コロナウイルス感染症や災害等を乗り越える学びの保障
- ・ あらゆる教育段階を通じた学びのセーフティネットの構築
- ・ 教育と福祉の連携

③ ふるさとへの愛着と誇りの涵養

（主な視点の例）

- ・ 京丹後固有の自然・歴史・伝統・文化を深く知る学びの継続
- ・ 学校と地域コミュニティのつながりと連携の促進
- ・ 地域資源を活用した生涯にわたる豊かな学びの推進